

# デンマーク最新事情



中原 准一

略歴

昭和21年 北海道富良野市生まれ。  
昭和49年 北海道大学大学院農学研  
究科博士課程単位取得。  
同 年 酪農学園大学講師  
昭和59年 同大学助教授  
平成3年 同大学教授  
同 年 社北海道地域農業研究  
所幹事

一九九二年六月二日、この日はデンマークにとっても他の欧州諸国、とくにEC（ヨーロッパ共同体）加盟諸国にとっても忘れがたい日として歴史に記されるだろう。周知のように欧州連合条約にたいする国民投票で、デンマークが僅差であれ反対を打ちだしたからである。

欧州連合条約は、九二年末のEC市場統合（ヒト、モノ、カネ、サービスなど域内での経済活動の自由化をはかる）ののち、通貨統合や政治統合をすすめるというも

の。これまでの国境にしばられた政治や経済のシステムとは異なる、新しい試みが欧州連合構想に外ならない。

デンマークは、酪農産品を中心に国内で生産される農産物の三分の二を輸出に回している。きわめて競争力のつよい農業を築いている。一九七三年の同国のEC加盟以前から農業は有力な輸出産業の一角を構成している。現在も工業製品も含む輸出総額の二五割が農産品である。

今回の国民投票に際し、農協連合会をはじめ主要な農業団体は同条約に賛成していた。これは、主要な政党、経済団体、労働組合も同様だ。これは貿易立国のデンマークとしてしからしむるところかもしれない。たとえば農協系統の乳業メーカーで同国最大のMDFーズは、市場統合後の欧州連合も視野において多国籍化をすすめているからである。農業界全体がさらに市場競争力をつけようと懸命の努力を傾注しているさなかの今回の国民投票の結果なのだ。

デンマーク・シヨックといって



きわめてつよい競争力を持つデンマーク農業、とはいえ農村風景はのんびりしたものだ



世界中が驚いたが、わたしの留学先の王立農獣医大学にも少なからぬ衝撃が走った。同大学の教授のなかには政府のもとに依りて、欧州連合にともなう農業プランづくりに参画している先生もいるからである。

同大学のある先生は、わたしにこう説明してくれた。「たしかに農業サイドにとっては、連合は経済的メリットがある。しかし、コペンハーゲンをはじめ都市部の投票者の判断は政治的な次元のところにあつたのだよ。デンマークがこれまで築いてきた、福祉の高い水準や厳しい環境規制（ちなみに同国に原発は一基もない。筆者注）などが、政治統合のなかで弱められるのではないかと畏れたんだよ。きわめて政治的な次元の問題なのだよ、キミ」。

さて、デンマークを紹介するうえでフットボール（サッカー）を欠かすわけにはいかない。六月二十六日、隣国スエーデンのイエーテボリでヨーロッパ選手権のファイナルマッチがおこなわれた。デンマークチームは強豪といわれた

フランスやオランダを破り、とうとうドイツと最終試合になったのである。

コペンハーゲンのマチは、試合前から興奮状態。わたしの留学先でもフットボールの話をしないうと前にすまない、といった観を呈していた。観光客でおなじみの市内中心部の市庁舎前広場には大型のTVスクリーンがしつらえられ、夜八時からの中継に備えた。同時刻は白夜なので明るい。

試合は二対ゼロでデンマークチームが圧倒した。その瞬間、コペン市内でも万雷の花火が打ち上げられ、小さな国旗を飾りたてた乗用車同士がクラクションを鳴らし、若者は手に手にやはり小さな国旗をもって街中に繰りだした。あちこちでデンマーク国歌を高唱。この興奮は夜半を過ぎても止みそうにない。なにはともあれホットな六月ではあつた。

（酪農学園大学教授、現在、デンマーク王立農獣医大学客員教授）